

平成 20 年度 第 6 回理事会  
(平成 20 年度第 1 回定例理事会)

議事録

日 時 : 平成 20 年 12 月 18 日 (木) 14 時 00 分～17 時 00 分  
場 所 : 日本医薬情報センター会議室(長井記念館 3 階)  
出席者 : 会 頭 北田光一  
副会頭 安原真人、山田安彦  
理 事 乾 賢一、大森 栄、奥田真弘、谷川原祐介、草井 章、  
望月真弓、山田勝士  
監 事 内野克喜  
年会長 佐々木均 (第 18 回)  
欠席者 : 副会頭 鈴木洋史  
理 事 東 和夫、井関 健、伊吹リン太、大石了三  
林 昌洋、樋口 駿、平井みどり、堀内龍也、山本信夫  
監 事 黒田和夫  
陪席者 : 日本病院薬剤師会事務局 阿部恵美、根岸正和

議 事

1. 会頭挨拶

北田会頭より、理事会開催の挨拶があり、理事 20 名のうち出席者 10 名と 6 名から委任状の提出があり本理事会は成立していることが確認された。

2. 議事録署名人指名

北田会頭より、大森 栄理事と奥田真弘理事に議事録署名人の指名があり了承された。

3. 平成 20 年度理事会(第 5 回)議事録確認・平成 20 年度評議員議事録確認・第 18 回総会議事録確認について

北田会頭より、議事録について確認の上、追加訂正があれば後程、事務局まで申し出るよう発言があった。

4. 協議事項

1)平成 20 年度日本医療薬学会認定薬剤師の更新について

①山田勝士理事より、資料に基づき平成 20 年度認定薬剤師については、更新対象者 298 人のうち、昨年に引き続き保留申請者 1 名、退職等により認定薬剤師の更新辞退が 9 人、更新申請の中に単位不足のため、更新できないものが 1 名あり、287 人が認

定更新されると説明があり、了承された。

また、指導薬剤師 252 名、研修施設更新施設 99 施設についても、了承され委嘱することになった。

新規指導薬剤師の追加については、3 名の申請があり、2 人が適格と判断され委嘱することです承された。

新規の研修施設認定の申請が、国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター、特別・特定医療法人生長会ベルランド総合病院、北海道医療大学病院、大阪医科大学病院、東京女子医科大学附属八千代医療センターの 5 施設からあり、指導薬剤師の存在や指導施設としてふさわしいか否かが検討され、すべて了承された。

また、異動等により指導薬剤師が不在となり、取消予定施設が 21 施設あり、平成 21 年度からは取り消すことです承された。

なお、更新料には更新のための審査料が含まれており返却しないことが確認され、混乱を避けるため、更新料取り扱いについては、その旨を明文化することが了承された。

②認定更新書式の一部追記について、資料に基づき説明があり原案通り承認された。

## 2) 学会賞受賞理由のホームページ公開について

北田会頭より、受賞者より学内広報のため選考理由の公開を求める要望があったことを受けて、学会として選考理由の公開について諮りたい旨の発言があった。協議の結果、いままで通り、タイトルと受賞者のみの公表とし、選考理由は公開しないことが確認された。

## 3) 「医療薬学」表紙デザイン変更について

奥田理事より、資料に基づき「医療薬学」表紙デザインを第 35 巻（平成 21 年発行）から変更することについて説明があり、協議の結果原案通り承認された。なお、表紙の色については第 35 巻を青色に変更することが決定され、36 巻以降については時期を改めて再度検討することが確認された。

## 4) 「医療薬学」発行経費について

山田副会頭より、資料に基づき「医療薬学」①第 35 巻の発行部数を増加すること、及び②第 36 巻の発行経費について説明があり協議が行われた。

①の第 35 巻については、既に発行部数 8,000 部、1 部あたりの単価 4,450 円（年会プログラム含む）で薬事日報社と契約を交わしているが、会員数の増加に対応するため 200 部増刷し 8,200 部とする一方、1 部あたりの単価については 50 円値下げし 4,400 円とすることが、原案通り承認された。

②の第 36 巻の経費については、見積もりが薬事日報社から提出されたが、その内容が発行部数 8,300～8,500 部、1 部あたりの単価は 4,450 円とし、サマリーチェッ

ク・別刷り無料寄贈の廃止を希望しているため、発行経費を抑えるために他の業者による見積もりを行うことが確認され、見積もり方法は現在薬事日報社が行っている作業について行うこと、業者決定時期は平成 21 年 4 月頃にする事が、原案通り承認された。

なお、年会ポケット講演要旨集の用途が年会プログラムと重複する傾向にあることから、発行については年会長の裁量に任されていることが確認された。

## 5. 報告事項

### 1) 一般社団法人日本医療薬学会設立について

乾理事より、資料に基づき一般社団法人日本医療薬学会の設立が完了したこと及びその経緯が報告され、今後一般社団法人として法律に適合した形で運営していくことが確認された。今後の運営のために、公認会計士に会計顧問就任を依頼し、適切な経理処理を確保すると共に法律上の疑問点を相談していくことが提案され、具体的な見積もりを次回理事会に提出し、協議することが決定された。

### 2) 「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」参画について

北田会頭より、資料に基づき日本内科学会を中心に実施している「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」への本会の参画について理事会の意見に基づき、モデル事業の中央事務局長に参画依頼書案を送付したことが報告された。

### 3) 第 19 回年会準備状況報告について

佐々木第 19 回年会長より、資料に基づき、10 月 24. 25 の開催が、がん治療学会と重なってしまい、参加者が減るのではないかと心配している。年会のホームページは既に立ち上げているのでご覧きたい、参加登録・懇親会費用については、札幌年会と同額に考えている。演題登録事前受付開始は 4 月 16 日、要旨締切は 6 月 11 日とし、プログラム等に関しては只今準備中であることが報告された。

### 4) 編集委員会報告

奥田理事より、資料に基づき編集委員会報告が行われ、①平成 20 年度「医療薬学」投稿論文数が月 15 編程度を推移し、昨年に比べ 3 割程度減少している傾向が続いていること、及び②投稿規定・執筆規定について、倫理的記載を追加し投稿規定と執筆規定間の体系を整備するための変更を平成 21 年 1 月 1 日より行うことが報告された。

投稿論文数の減少については、審査期間を厳守することを周知していくことからその対策を進めていくことが確認された。

5) 平成 21 年度がん薬物療法海外派遣研修員の募集について

北田会頭より、ブリストルマイヤーズの支援による「がん薬物療法海外派遣研修事業」は平成 21 年度も行う旨の報告があった。なお、例年通り 4 名の派遣と付き添い理事の参加となるが、事業費との関係で一部負担金をお願いする可能性もあるとの説明があった。

6) 公開シンポジウム報告について

北田会頭より、資料に基づき、第 30 回医療薬学公開シンポジウムは、平成 20 年 11 月 1 日(土)大分市コンパルホールにおいて、メインテーマ「時代が求める薬薬連携」と題して開催されたことが、報告された。

7) シンポジウム後援について

北田会頭より、資料に基づき、京都大学大学院佐治英郎教授が責任者の「先端医療の育・創薬を先導する薬剤師育成教育シンポジウム」後援依頼について説明があり、会頭・副会頭にて協議し、後援を認めたことの報告がされた。

8) 平成 20 年度電子アーカイブ対象誌への「医療薬学」応募結果について

事務局より、平成 20 年度 J-STAGE 電子アーカイブ対象誌に「医療薬学」が選定されたことが報告された。

9) 学術雑誌電子化関連事業の連携・協力についての合同説明会について

事務局より、資料に基づき、標記の件について報告があった。J-STAGE・国立情報学研究所のそれぞれに掲載している学術雑誌の重複しているものは、J-STAGE に統一して掲載し、J-STAGE に掲載が困難なものについては、国立情報学研究所で行うことになる等の説明があった。

10) 月刊誌「学術の動向」への無料広告について

事務局より、資料に基づき、日本学術協力財団発行の月刊誌「学術の動向」への無料の広告募集について説明があり、本会としては、年会の広告掲載を依頼することが了解された。